



地域と連携 課題解決、魅力創出を図る

持続可能なより良い地域づくりをめざして、山陽新聞社は「吉備の環プロジェクト」を 2021年8月にスタートしました。報道や言論活動だけにとどまらず、エリアの各地に出向き、地域の皆さんと連携して課題の解決や魅力の創出を図っています。

■吉備の環アクション「里海 未来へ」……瀬戸内海の再生目指す

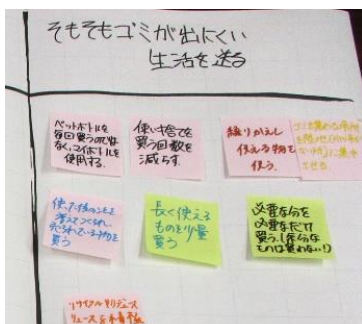


世界的に海洋プラスチックごみの問題は深刻です。瀬戸内海も例外ではなく、ごみの多くは陸から川や用水路を通して海に流れ込んでいます。山陽新聞社は2022年10月から、海ごみを削減して環境を再生するため、吉備の環アクション「里海 未来へ」を展開しています。住民グループや環境団体、学校、企業などと連携し、ごみの回収や啓発、調査を行ってきました。連携事業を契機に、自主的な活動に乗り出す動きも広がっています。

<活動事例> 笹ヶ瀬川での清掃イベント



<活動事例> ワークショップ



Q 海ごみを減らすためにできることは？

- ・レジ袋を断る ←参加者のアイデア例
- ・マイボトルを持ち歩く
- ・長持ちするものを使おう
- ・3R (リデュース、リユース、リサイクル) を守る
- ・プラ容器に入った物ばかり買わない

■吉備の環アクション「前浜もん いただきます」

……海の恵みと魚食文化を次代へ



瀬戸内海では貧栄養化などから漁獲量が減り、流通事情の変化や消費者の魚離れもあって、多種多様な地魚が食卓に並ぶ豊かな食文化が失われつつあります。吉備の環アクション「前浜もん いただきます」は、海の恵みを守り、魚食文化を次代へ継承できるよう、クロダイの消費拡大に向けた活動や地魚が並ぶ朝市の魅力などを記事で取り上げています。



▷ 魚の地産地消、なぜSDGs、
エシカル消費につながる？

- ・ 輸送によるCO2排出量を削減し環境負荷を軽減
- ・ 瀬戸内海の海洋資源を守る
- ・ 食品ロスの削減
- ・ 漁業者の収入増による地域経済の活性化
- ・ 食料自給率の向上
- ・ 食文化の継承
- ・ 生産者と消費者の交流



■連続シンポジウム「SDGs×吉備の環プロジェクト『地域課題に挑む』」



登壇者と聴講者が地域の課題を自分ごととしてとらえて一緒に考え、解決策の実践につなげる機会となるシンポジウムを目指しています。高校生、大学生といった次代を担う皆さんとの連携に力を入れ、毎回登壇いただいています。2024年は

3回実施し、第1回は海ごみ・プラごみ削減、第2回は食品ロス、第3回は海洋資源の保全をテーマに取り上げました。

